

笑顔あふれる楽器体験

9月6日、東京音楽大学の学生と信濃小中学校の交流演奏会が、信濃小中学校で開かれました。東京音楽大学の音楽教師を目指す3年生98人と先生方18人が信濃小中学校を訪れ、5～6年生の児童は、演奏を聴き、さまざまな楽器体験をしました。吹奏楽・管弦楽による演奏が披露され、吹奏楽では、にぎやかな曲調に併せて3名の学生が踊るといった楽しい演出もありました。

楽器体験コーナーでは、バイオリンやチェロをはじめとする普段触れることのない楽器に、児童たちは興味津々で、大学生に手ほどきを受けながら、楽器を吹いたり

弾いたりして、さまざまな楽器に挑戦していました。なかなか音が出ず苦戦する楽器もありましたが、大学生の手ほどきにより、きれいな音が出ると、周り一帯に笑顔があふれていました。

最後に、信濃小中学校校歌のオーケストラバージョンの演奏に合わせて、児童全員で校歌を合唱しました。

東京音楽大学の野口芳久先生は、「学生にとっても、子どもと接する機会が少ないので、とても貴重な機会を頂いている。楽器体験での子どもたちの姿を見ると、とても楽しそうに感じられた。今後も続けていきたいと考えている。」と話されました。

1～3 楽器体験コーナーで、さまざまな楽器に挑戦中 / 4 オークストラの指揮体験もありました / 5 信濃小中学校校歌をオーケストラの演奏に合わせて、児童全員で校歌を合唱しました



とから、中野次郎氏が作曲した「一茶さん」を、この演奏会のためにオーケストラバージョンに編曲していただき、郷愁を感じさせる深い響きの演奏が披露されました。演奏が終わると、いつまでも鳴り止まない盛大な拍手が送られました。同大の鈴木理事長からは、

「大学をあげて信濃町との文化的な交流を深めている。今年は初めて教職課程の学生が信濃小中学校で交流演奏会を行った。今後も交流を深めていきたい。」と話されました。今後も東京音楽大学と信濃町の「癒し」をキーワードとした連携にご注目ください。

癒が、今年で3年目となり、コンサートでは、交流の一環として、国内屈指の音楽家である東京音楽大学の先生方から指導を受けた、信濃小中学校吹奏楽部の生徒たちが、東京音楽大学の学生と共に演。素晴らしいハーモニーを奏でました。信濃小中学校吹奏楽部部長の北村さくらさんは「東京音大の先生に教えていただき、コンクールでも演奏した曲ですが、実際に大学生と

一緒に演奏するのは、やっぱり違い、緊張もしました。吹奏楽部で使っていない楽器もあると、違った曲になり、面白かったです。とても勉強になりました。」と話されました。学生約百名からなる「東京音楽大学シンフォニーオーケストラ」による、バレエ音楽で華やかな曲のハチャトリアンの「ガイヌ」組曲等が演奏され、力強さと優雅な響きに聴衆は耳を傾けました。今年は一茶生誕250年の記念の年でもあるこ

東京音楽大学が奏でる第3回癒しの森コンサート 幾重にも重なる交流の音

9月8日、総合体育館において今年で3回目となる「癒しの森コンサート」が開催されました。ますます東京音楽大学と信濃町の文化交流が深まる中「東京音楽大学シンフォニーオーケストラ」の演奏が700人を超える聴衆の心に響き渡りました



1 東京音楽大学の学生と信濃小中学校吹奏楽部の共演 / 2 川瀬賢太郎氏の迫力あふれる指揮 / 3 「一茶さん」のオーケストラ編曲をした原島篤史さん（東京音大3年生） / 4 全員で「ふるさと」を合唱

